

## 社団法人森と緑の公社第3回経営検討委員会の開催結果

### 1 開催日時

平成24年6月19日（火曜日） 午後4時30分から6時30分まで

### 2 場所

京都ガーデンパレス「葵」

### 3 出席者

【委員】田中座長、中野委員、榎崎委員、野澤委員、長谷川委員（五十音順）  
（欠席 松下委員）

### 4 議事

#### （1）報告事項

- ・第1回及び第2回経営検討委員会の概要について

#### （2）協議事項

- ・「採算林」「不採算林」の考え方と分収林管理のあり方について

### 主な意見

- ・50m以上のところもフォワーダは必要であり、全試算条件でフォワーダを入れて、検討した方がよい。
- ・「路網の優先順位」「資源（木材）の良否」等で再検討できるところが出てくる可能性がある。そのため、採算か不採算かで区切ってしまうよりも、中間的な区分を含めた方が将来的に希望があると考えられる。
- ・今後伐採する森林が増えるということになると、需要と供給の関係から考えれば当然木材の価格は若干下落傾向に出ると見るのが自然ではないか。
- ・所有者は契約時いくらかの収益を期待していたはずだ。不採算林になった事業地を所有者の収益なしとするのではなく、集約化するなどしてもっと大きな単位で考え、収益を分け合えるような仕組みを考えるべきだ。
- ・針広混交林に誘導するときが一番問題なのがシカの食害の問題。強度の間伐をした時に跡地に広葉樹が本当に入ってくるのかという問題がある。試験的に防鹿対策をやりながら強度間伐をしてもいいのではないか。
- ・この試算で行くと木材価格のリスクが非常にあるが、事業地の中には45年生から10年生までである。若い森というのは可能性もあるがリスクも高い。  
80年という長いスパンの計画で、リスクをどう読むのかによって、随分考えが変わるのではないか。
- ・試算では、売上高は258億円ということになる。公社の山がきちりと動いていけば、累積債務よりも大きなお金が動くということになる。  
支出は、伐採や集材運搬費が大半を占めているが、ほとんど労賃的なものであるため、府内に還元されるとすれば、186億円近い金が府内に落ちていくということであり、公社の山の木材が動けば、京都府の中では今の借金を上回るくらいの経済活動を期待できる。

- 雇用という面では確かに公社が担ってきた役割は大きいですが、それを支えてきた公社そのものが立ち行かなくなっている。その経営を何とかしていきたい、どこかで見切りをつけたいということなので、廃止ということも議論の中に含まれている。  
公社の役割を推奨するとか公社の役割を別のところが担っていく形をとりながら公社機能は存続することで、何とか雇用を継続していかないと何ともしがたいと思う。公社が本当に立ちいかなくなってしまった時は、そもそも雇用も継続できなくなる。
- 今までの公社とこれからの公社と少し区分けして考える必要があると思う。今までは森を育てるための時代で、これからは利用間伐や森を利用する時代。利用する時代での公社の役割は過去と違うということ、きちりと示していくべきだ。
- 不採算林の扱いで針広混交林という話は、非常に難しい問題。技術的に全く確立されていない。そのあたりを踏まえた上で計画を立てていく必要がある。
- 今後議論していく上で、経済的な合理性の問題と公益的機能や緑化、雇用の問題などあるが、この両者については、ある程度区別をしながら議論を進めていく必要がある。経済的なことで考えると、現在の収支計算は、甘いという感想を持っている。
- 数字的に厳しくても公益的な観点から考えて、ある程度府民の理解を得ながら資金を投入していくことは可能ではないか。
- 二つを区別しながらでないとならば次回の議論は混乱するのではないか。